

令和7年度 長野県池田工業高等学校 【定時制】 学校評価表

学校教育目標	自らの力で問題を解決する実践力と地域に貢献できる創造力豊かな人づくりを目指す
重点目標 (長中期的目標)	<ul style="list-style-type: none"> 個性や能力を伸ばし、安全で安心して学べる学校づくりを進める 地域との連携を図り、地域に根ざした学校づくりを進める 生徒の自立を促し、一人ひとりの能力の開発と基礎学力の定着を図る
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって自己肯定感、自己有用感が持てる居場所のある学校づくりを目指す 家庭、および関係機関との連携を密にし、きめ細かな教育活動を行う 生徒の自立を支援しながら、基礎学力の定着を図る 生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめなどない安全・安心な環境づくりに努める

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価 (A・B・C)	コメント
教	教務	①学習活動や行事運営の円滑な推進	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事や総合的な探究の時間について年間計画を作成し、円滑な実施ができたか。 生徒一人ひとりが落ち着いて学習に取り組める環境を整えることができたか。 	B	年間計画に基づき多くの行事や総合的な探究の時間を行うことができた。行事後のアンケートから、参加した生徒は概ね充実感をもって、よき学びをした。来年度も生徒が主体性をもって、行事ができるように環境を整えていきたい。
		②安全対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルを周知・理解することができたか。 安全確保ができるよう避難訓練等の実施を工夫できたか。 	A	安全対策に努め、生徒に事あるごとに注意を促した。今後も、天候不順時や暗闇での登下校の安全に注意を喚起したい。学校付近でクマ出没が頻発したが、さらなる対策が求められる。地震による出火を想定した避難訓練を5月と10月に実施した。
		③基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある授業展開をし、生徒個々に対応し配慮された教科指導がなされたか。 社会生活を送る際に必要となる基礎学力の定着がなされたか。 	A	ICT機器の活用等、各教科で工夫を凝らし、基礎学力の定着を含め、生徒個々の学習を支えるような教科指導ができた。今後も生徒個々へのきめ細やかな対応に努めたい。
		④教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 定通併修や高卒認定試験等、学校外における学修成果の認定を積極的に行い、学校設定科目や個別指導により、生徒の多様な進路希望への対応がなされたか。 	A	定通併修制度2年目の生徒は、通信制で履修したすべての科目を好成績で修得の見込みである。また、来春からの短期大学への進学を決めており、本校ならではの進路を実現することができた。
育	生徒指導	①安全・安心な学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導や校外指導を行い、問題行動の未然防止・早期発見に努めたか。 学校生活を送るうえで望ましい態度やマナーの定着に努めたか。 通学方法を把握し、安全に通学する指導に努めたか。 	A	保護者対象の前期学校生活のアンケート結果で、「社会のルールについて適切な指導をしている。」の項目において、大いに・大体そう思うが合わせて90%であることから、生徒指導における全職員の取り組みは評価はされていると感じる。一方で、多様な生徒・保護者に対して同一基準でなく、いかに適切な生徒指導を進めるかに努める必要がある。
		②人権尊重の意識の向上	生徒理解懇談会の開催や生徒生活意識調査の実施により、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見への取り組み、発生した際の迅速かつ適切な対応に努めたか。	B	人権学習・全校集会・HR・授業など学校生活を通じて、人権感覚を養うことができた。ただ、SNS上で不用意に書き込みを行ってしまう場合があり注意喚起を促した。今後も粘り強く指導していく必要がある。
		③教育相談活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、家庭の抱える課題について相談にのり、教育相談、カウンセリング事業が積極的に活用できたか。 不登校生徒への細やかな支援ができたか。 	A	年度の初めに全員面談を実施。全生徒とSCが顔合わせをすることで、相談しやすい環境づくりをした。気になる生徒にはカウンセリングを勧めたり、2学期以降も定期的に全員面談を実施したりして、SCから客観的意見を頂いた。
動	進路指導	①個に応じた進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携しながら、生徒の希望、適性、能力に応じた進路選択の支援ができたか。 ハローワーク等との連携を図り、進路情報を有効に活用することができたか。 	A	生徒の希望に沿いながら、保護者と連絡を密にして進路選択をおこなった。クラス担任のきめ細やかな指導により、卒業予定生徒全員が自分の希望する進路に進むことができた。
		②キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 社会的、職業的に自立する基礎的、基本的な力を育てるために、職場体験やライフスキルトレーニング等を通じて有効な支援を行うことができたか。 	B	職場体験は事業所との連絡を密にし、生徒の希望に沿った体験を実施した。また、年2回の進路学習、学年ごとのライフスキルトレーニングを実施し、自己理解を深めるとともに、キャリア発達を促す基礎力を養うことに務めた。
生徒会	生徒会	①生徒主体の活動の重視	多くの生徒会行事において、生徒たち自ら、企画・運営を進められるよう、指導や工夫ができたか。	B	生徒主体に行えるように企画していったが、教師が介入しなければならぬ場面もあり、時間の確保や早めに企画することが大切だと感じた。行事などの進行は生徒が率先して動く場面があり、全員で協力できるように務めた。
		②クラブ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が競技力向上を目指す環境づくりができたか。 生徒との信頼関係を築き、互いに助け合い、高め合えるよう、支援できたか。 	B	生徒の技能向上に努めたが、大会には参加しないこともあり成果を試す場面がなかった。その年によって、実態を踏まえた目標設定などをおこない、生徒が意欲的な活動になるようにしていく中で、個に応じた対応ができた。
学校環境の整備	環境整備	①保健教育・保健管理	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断、健康教育を通して、生徒一人一人が自分の身体と健康に関心を持ち、生涯にわたって心身ともに健康な生活を送るための取り組みがなされたか。 	B	歯科健診において歯保有者が数名いた。健診直後と保護者懇談に通知を出し受診を促したが、治療に繋がる生徒が少なかった。来年度は、関心を持ってもらうような工夫が必要だと感じた。保健だよりを通じて自分の体や心に興味関心を持ってもらえるよう、定期的に発行した。
		②保健衛生	<ul style="list-style-type: none"> 夜間の学校生活に対する安全衛生の管理点検と、校舎内外の美化、整理整頓がなされ、学習環境が良好に整えられたか。 	A	日頃の点検に加え、学校薬剤師とも連携しながら学習環境についての整備ができた。冬季は空気の循環が悪くなることから、感染症対策も含めて授業ごとのこまめな換気を呼びかけていきたい。
	開かれた学校づくり	①保護者に対する説明責任	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の状況や学校の指導方針、学校での生徒の様子などについて、保護者に十分な説明責任をはたすことができたか。 公開授業等を行ったか。 	B	公開授業（5月）や保護者懇談会（7月、12月）を通じて、保護者に学校の様子を知っていただくことができた。また保護者アンケートを年2回実施し、その結果をオクレンジャーで送信したり、HPに掲載することで、保護者に知らせることができた。
		②地域社会への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 定時制の活動をホームページ等で積極的に中学校や地域に広報できたか。 様々な機会を通じて地域との連携を図ることができたか。 	B	職場体験や地域清掃、地域の伝統文化である相道寺焼の陶芸教室を実施することにより、地域の方々との連携を図ることができた。来年度も地域社会への情報提供を積極的に行っていきたい。
その他	職員	③学校、関係機関との情報交換と連携	<ul style="list-style-type: none"> 各中学校、全日制課程、近隣の定通課程をもつ学校、近隣市町村教育委員会、支援機関との連携や意見交換を積極的に行い課題や問題点の共有がなされたか。 	A	近隣だけでなく、他県の定通課程高校とも意見交換ができた。また支援機関と積極的に連携を取ったことにより、個々の生徒支援につなげることができた。
		職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の研修会等に参加し、研修成果や情報などを教職員間で共有できるよう務めたか。 	A	年度当初、外部講師を招き、生徒支援のための研修をおこなったほか、コンプライアンス研修、他県の視察報告などを行った。来年度も気軽に情報共有ができ、それぞれがアップデートを図ることのできる研修の機会を増やしていきたい。